

女性技術者を現場配置

現場の雰囲気向上に大きな役割

東北整備局
港湾空港部

みらい建設工業の八戸港浚渫工事

少子高齢化の影響などにより人材不足に悩む建設産業では、いま女性の活躍に大きな期待が寄せられている。東北整備局は昨年、女性技術者の登用を促進するための全国初のモデル工事を試行。同局港湾空港部でも本年度から女性活用型総合評価方式の試行を始め、7月には「八戸港八太郎・河原木地区航路泊地（埋没）浚渫工事」で、女性技術者の配置を提案したみらい建設工業と契約を交わした。その現場の取材を通じて、女性技術者がより一層活躍していくための道筋を探った。

建設産業での女性活躍推進をめぐっては昨年8月、5年で女性の倍増を目標とする「もつと女性活躍できる建設業行動計画」を国交省と建設業5団体が共同で策定し、官民挙げてさまざまな取り組みを展開している。こうした状況を受け、港湾空港部は本年度から、女性技術者の現場配置を総合評価方式で加点する取り組みに乗り出した。

具体的には、技術提案評価型S型（非WTOタイプ）、施工能力評価型I型（施工計画重視型、標準型）、II型を適用する全ての工事を対象に、現場代理人、監理技術者（主任技術者）、担当技術者に女性技術者を配置した場合に1点を加点。現場代理人、担当技術者は資格を問わず、配置期間は担当する分野に係る期間の半分以上、実工期（現地着手～工事完了）の4分の1～3分の1で発注者が指定した期間以上のい

ずれかとした。この方式が適用された案件のうち、みらい建設工業が受注した「八戸港八太郎・河原木地区航路泊地（埋没）浚渫工事」で、本官工事としては初めて女性技術者が現場に配置された。同工事は地区内の浚渫工、埋戻工などを行うもので、浚渫はポンプ浚渫船とトレミー式砂撒き船を使い土砂を約5^キリ先に排送する。工期は7月21日から10月23日まで。担当技術者となった関谷桃子さんは、大学の理工系学部を卒業後、みらい建設工業初の女性土木技術者としてことし4月に入社したばかり。「大学で現場見学会に参加したことやOBの体験談を聞いたこと」が技術者を志したきっかけという。

入社2カ月目に東京で内部護岸を造るための鋼管矢板の打設作業などに携わった経験はあるものの、地方の現場は初めて。「体力面

で力がないのと、年下の女性ということで甘く見られないかが気になります。また、地方では方言が多いので、作業面でうまく伝えられるか心配」と不安な気持ちを打ち明ける。

前の現場では「鋼管矢板の圧入の打ち止めの高さを読み間違い、固定が終わってからやり直すことになりました」との失敗も。ただ、そのときは「周りの皆さんが、自分たちも気がつかなかったからとか、優しくフォローし、すぐやり直

してくれた」と周囲の温かさに感謝の気持ちを示すとともに、「もう絶対失敗しないと気合いを入れて作業し、管径800^ミ以上の鋼管矢板215本を打ち終わつた時には、すごい充実した気持ちになりました」と仕事の魅力も語る。

女性技術者が現場に配置された八戸浚渫作業所で監理技術者を務める中田崇晴さんは「現場は、ぶつかりぼうな言葉が飛び交う感じになりがちだが、女性がいるおかげで言葉が柔らかくなるし、作業の雰囲気も和らぐ」と、その存在の大きさを強調する。

ただし、現場事務所は営業所の一部を利用して



現場の確認も重要な仕事

ため、更衣室やトイレなどの問題は生じていないが、「さまざまな現場で女性に活躍してもらう上では、こうした衛生面での改善が必要ではないか」とも指摘する。

関谷さんの目標は「早く仕事を覚えて、土木施工管理技士の資格を取得し、現場代理人になること」。さらに「いつかは、フローティングドックで大きいケーソン製作の現場をやってみたい」と意欲を示す。

東北整備局港湾空港部では、女性技術者が配置された現場の実態を把握した上で、より魅力的な就業環境の整備などに取り組んでいく方針だ。



関谷さん（左）と中田さん